



うち靡(なび)く 春の柳(やなぎ)とわがやどの 梅の花とを いかにか分けむ

万葉集 巻5-826 史氏大原(しじの おおはら)

しなやかに靡く青柳とわれらの庭に咲く梅。どちらもたとえようもない美しさ。その優劣をつけるなどとても出来ません

一年間の総括と来年度に向けた取組が！

2月に入って、早10日間が過ぎようとしています。今年の冬は大寒を迎えてから寒い日が続き、ここ2、3日は朝の冷え込みがきついです。昼間は寒さも緩み、なぜかしら日差しも春めいた暖かそうな感じがしています。また、まわりの庭や畑では、スイセンや梅が咲きはじめ、少しずつ春を感じる季節となりました。

私は10数年来、健康の保持増進と体重維持のため、ウォーキングを心がけ、昼の休憩時間には30～40分ほど、高田川の堤防を通り、中和幹線のそらつ橋辺りまで足を伸ばして、さわやかホールまでの道のりを早足で行っています。また、夜は、自宅から北体育館沿いの高田川に出て、里合橋から中橋までの往復の4kmをほぼ日課として楽しんでいます。特に昼のウォーキング時には、堤防沿いに早春を感じさせるオオイヌノフグリやホトケノザ、ナズナ、オランダミミナグサなどの草花が咲いているのを見かけます。また、高田川にはカルガモ、コガモ、カワウ、アオサギなどの水辺の鳥が、周辺の草むらや木々にはハクロセキレイ、ツグミ、ヒヨドリ、そして時には翡翠のようなきれいな羽根を持つカワセミなどの鳥たちが暖かい日差しを待ちかねたように元気にさえずり飛んでいるところ見かけます。このたよりを読んでいただいている皆さんも、ほほに冷たい風を受ける中、ちょっと外に出向いて小さな春探しに行かれてはどうでしょうか。

さて、今年度も残すところ一月半ほどとなりました。今年度は、昨年4月に教育委員会をさわやかホール2階に移転し、子ども子育て支援、就学前教育等を担当することもまんなか部を編入するとともにけんこう推進課、社会福祉課等、福祉と教育の連携を進めることができました。来年度は、より一層子どもたちを常に「まんなか」に据えながら、福祉部門と連携し、様々な施策を進めていけたらと考えています。

この時期、子どもたちにとっては、一年間の学習のまとめに取り組む時期となっています。特に中学3年生にとっては、人生で最初の大きな節目となる高校入試が本番を迎えています。将来の夢の実現に向けた一つの試練であり、これまでに培ってきた努力の成果を思う存分発揮して、一人一人が希望する高校にみごと合格するよう精一杯がんばってほしいものです。また、年長児や小学6年生においては、就学、進学に向けた保育・学習とともに卒園・卒業に向けた思い出づくりなどの取組も進められています。

学校園においてはこの時期、教職員が一年間を振り返り、教育活動の成果や課題を明らかにする中で、次年度に向けての課題解決策とその取組の計画が進められています。



子どもたちにとって、新年度が新たな友達や先生方との出会いによってワクワクと心が躍り、一人一人の希望が叶う笑顔に溢れた楽しい学校園生活が送れるよう教育委員会も、学校園の応援団として新年度に向けた新たな事業の推進に努めています。何とぞ皆様方のご支援ご協力をよろしくお願いいたします。

教育委員会関係団体の取組

『二十歳のつどい』を開催しました！

1月12日(月)の成人の日に、広陵中央公民館かぐや姫ホールで令和8年広陵町「二十歳のつどい」を開催しました。

今回も昨年に引き続いて、午前、午後の二部制での式でした。午前には広陵中学校区、午後には真美ヶ丘中学校区の二十歳の皆さんを対象として、昨年同様、来賓の皆様も主催者側も極力出席者を控えた中での式典でした。今年、町内で成人になられたのは359人で、町外も含めて、広陵中学校区が194人中152人、真美ヶ丘中学校区が165人中139人に参加していただきました。

オープニングイベントとして広陵金明太鼓の皆さんが、二十歳の皆さんの門出を祝して、勇壮かつ軽快なリズムの「打てや囃(はや)さん」という曲を演奏をしていただき、「二十歳のつどい」に参加された皆さんに力強いお祝いの気持ちを伝えていただきました。



式の進行は、午前は実行委員の長野さんと井藤さん、午後は島原さんと高崎さんが司会者として緊張しながらも、スムーズに進めてくれました。

吉村町長は式辞の中で、高市総理の「どんなに辛い状況でも、自分を支えてくれるのは結局『志』しかない。」という言葉引用され、「困難に直面したとき、最後に頼れるのは自分自身の信念であり、『志』を持つことは、困難を乗り越える力になると同時に、人生を豊かにする根源となります。皆さんもぜひ、自らと深く向き合い、『心から目指したいと思う方向性』を見つけてください。周囲との協調はとても大切ですが、主体性を持ち、自分の意志で行動できる人になってください。そして、皆さんの大切な一度きりの人生を最高のものにしてください。」という熱い思いを伝えられました。



教育長の私は、お祝いの言葉として、パナソニック創業者の松下幸之助がある本に述べられた「迷った時は、より困難な道を選べ。」というエールを贈りました。「難題が生じたときに、『よし、チャンスだ。』と考える。すると勇氣、元気がわいてきて、思い直すことができる。その問題解決のために、考えて、考えて、考え抜く。何度も問い直す。自分で考えるだけでなく、謙虚に他人の声、世間の声に耳を傾ける。いわゆる“衆知”を集めて生かす。さらには、素直な心で自分を客観的に見つめ直し、自分の考

裏面へ

え方が正しいかどうかを点検し、考え直す。つまり、自分を見つめ直すことをくり返し行う。こうした思考作業の上に立っての、日々の行動が大切です。そして、二十歳になった皆さん、迷った時は、より困難な道を選んでください。そのことが、皆さんの人生を切り拓く鍵となります。」というメッセージを贈りました。

「二十歳の誓い」では、午前が植村さんから、「多くの人と出会う中で、相手を理解しようとする真摯な姿勢とどんな相手であっても受け入れられる、素直で優しい大人でありたい。そして、“I love myself”という言葉が好きで、この言葉には、「自分を理解し、受け入れる大切さ」が込められています。人は自分を大切に、そして愛することではじめて、相手を受け入れ、理解することができます。」と心のこもった新たな誓いを話してくれました。



午後の阪本さんからは、「コロナ禍で、中学3年生の数々の行事が影響を受け、沖縄への修学旅行や夏の県総体が無くなってしまい、日常生活もままならず、日々の当たり前は非常に恵まれていたものだという事を改めて認識したこと、そして、今はまだ未熟な二十歳だけれど、数年後には後輩たちに、自分たちが経験したことを与えることができるような大人になります。」という熱い想いを述べてくれました。



その後、小学校区ごとに分かれてのアルバムの記念撮影、そしてアトラクションとして、実行委員の皆さんが取材・編集した小中学校の恩師によるビデオメッセージが流れ、思い出ある先生方の懐かしい学校生活でのエピソードと心のこもったお祝いのメッセージに歓声を上げていました。



午前・午後とも、式は厳かな中にも静かに落ち着いた雰囲気が進み、主催者として人生の節目を無事お祝いできたことが何よりもうれしいことでした。

令和7年度読書感想文コンクール表彰式!

1月22日(木)、今年度で4回目となる読書感想文コンクール表彰式を開催しました。この取組は、子どもたちの活字離れに歯止めをかけること、学力調査の結果から課題があると思われる書く力、読む力を向上させること、そして何よりも子どもたちに読書習慣を身に付けることを目的に実施しています。

毎年10月27日～11月9日の読書週間に合わせて、担任の先生や国語の先生から読書感想文の書き方を教えてもらい、今回は、小学校から1045点、中学校から939点、合計1984点の応募がありました。小学校低学年の部、中学年の部、高学年の部、そして中学校



の部から厳正なる審査の結果、それぞれの部で町長賞、教育長賞、図書館長賞を1点ずつ選考しました。

表彰式には中川副町長をはじめ、教育委員の皆さん、図書館長、各小中学校の校長先生、そして保護者の皆さんにも出席いただき、受賞した子どもたちに花を添えていただきました。

私はあいさつの中で、コンクールに至った経緯とともに、読書の効能について、読書する時間が長い子どもは、左の脳を中心に情報伝達がしやすい脳になっていて学力が高く、1時間以上本を読む子どもの成績は平均を大きく上回っていること、町の方でも「まちじゅう図書館」を展開し、気軽に本に触れる環境の整備に努めていることを話しました。また、中川副町長からは、子どもの頃に読んだジュール・ベルヌの「海底20,000マイル」に感動し、SF小説が大好きになったこと、読書の良さや読書習慣を身に付けてほしいことについて、あいさつをいただきました。図書館長からは、本に触れるすばらしさと本と読書の魅力を発見できる美しい絵本の「ほん book」を読み聞かせをしてもらいました。



表彰された皆さんを下記に紹介します。

- | | | | |
|---------|-------|----|---------------|
| 【町長賞】 | 低学年の部 | 西口 | 陽葵さん (東小2年) |
| | 中学年の部 | 中瀬 | 楓さん (真美一小4年) |
| | 高学年の部 | 木全 | 花瑠さん (西小6年) |
| 【教育長賞】 | 中学校の部 | 寺西 | 美音さん (広陵中3年) |
| | 低学年の部 | 奥田 | 健太郎さん (北小1年) |
| | 中学年の部 | 片山 | 和さん (西小4年) |
| 【図書館長賞】 | 高学年の部 | 元原 | 千恵さん (真美二小5年) |
| | 中学校の部 | 木原 | 一花さん (真美中1年) |
| | 低学年の部 | 柳沢 | 貫太さん (真美一小2年) |
| | 中学年の部 | 野瀬 | 美結さん (東小4年) |
| | 高学年の部 | 後藤 | 奈帆子さん (北小6年) |
| | 中学校の部 | 堀井 | 愛美さん (広陵中2年) |

第3回架け橋推進委員会を開催しました!

1月30日(金)、今年度、最終の架け橋推進委員会を広陵中央公民館大会議室で開催しました。架け橋推進委員会は、3年前に、幼稚園・保育園・こども園の5歳児と小学校1年生の子どもたちを架け橋期と捉えて、国が示した「架け橋プログラム」を推進するために立ち上げました。幼稚園・保育園・こども園と小学校とのスムーズなつながりを目指し、「幼・保・こ」の5歳児担当の先生方と小学校1年生の担任の先生方を推進委員としています。これまで、県教委の就学前教育アドバイザーの先生や大学の幼児教育の先生方を講師に迎えて、年に3回ほどの研修会や就学前のアプローチカリキュラム、就学後のスタートカリキュラムの作成に尽力していただきました。

この日は、各小学校区の架け橋推進委員活動の振り返り(幼保こ小の教員間の交流、話し合い、成果と課題等)を発表してもらい、その発表に対して、畿央大学の中村恵先生から、その講評と次年度に向けての取組の提案をしていただきました。

